

第 25 回奈良市文化振興計画推進委員会 会議録

開催日時	平成 30 年 4 月 23 日（月）午後 1 時から午後 2 時 30 分まで	
開催場所	奈良市役所中央棟 5 階キャンベラの間	
議題	1 開会 2 部長就任あいさつ 3 会長挨拶 4 議事 (1) 奈良市文化振興補助金について 5 その他 (1) 平成 29 年度古都祝奈良事業報告 (2) 奈良市美術館再オープン及び同記念展について	
出席者	委員	中川会長、萩原委員、春田委員、村内委員、山下恭委員、山下里加委員 【計 6 人出席】
	事務局	園部市民活動部長、中川市民活動部次長、谷田文化振興課長、川井補佐、吉川主査、小谷係長、大西、一柳（以上文化振興課）
開催形態	公開（傍聴人 2 人）	
決定事項	[決定事項] ●今回の会議録の署名は、中川会長と春田委員が行う。 ●次回委員会開催を 5/7 とし、今回の委員会での意見を反映させた事務局案の提示を受け、委員会意見を付す。 ●なら国際映画祭から補助金要望がされた場合、5/14 にこの委員会でプレゼンテーションを行い審査する。	
担当課	市民活動部文化振興課	

議事の内容

1 開会	・事務局より本日の会議の成立について説明した。
2 部長就任あいさつ	
3 会長挨拶	・開会にあたって中川会長から挨拶。かねてからの懸案事項である補助金の仕組み、ルール、考え方について早急につめて、体系を整理していかねばならない。 ・本日の署名委員は中川会長と春田委員であることを確認した。
4 議事	(1) 奈良市文化振興補助金について

(事務局より説明)

- ・今回委員会を開催した経緯の説明。
- ・奈良市文化振興補助金について、今回審議の目的について説明（現在の補助金の位置づけや目的、根拠を明確にする枠組みやルールを設定すること、補助金の公益性や審査過程を明らかにしていく仕組みなど）。
- ・当委員会においては補助金の議論をしていただいていた経緯（補助金要綱について、補助対象経費に対する補助割合と上限金額、評価指標内容や審査方法についてなど）があり、それをベースに本日は議論していただく旨の説明。
- ・今後は、本日の意見を整理し、次回の5月7日委員会で確認いただきたいこと。なら国際映画祭から要望があれば、5月14日にこの委員会で団体からのプレゼンテーションという形で審査をしていただきたいこと。それらを元に市として予算査定をしていきたい旨の説明。

(委員からの質問・意見は以下のとおり)

補助金交付事業の決定方法、補助額・補助率について

- ・今までは審査会を開いて決めていなかったのか。
→そうだ。予算編成時に団体からの要望をベースとして予算査定を経て予算案を作成している。
- ・奈良市文化振興計画の中で基準作りをしないと、毎年毎年査定があれば補助金を受けられると思われてしまう。もらっている団体ともらっていない団体の間に差があり、新規参入への障壁ができています。奈良の文化を阻害する要因になりかねないので、早く基準を作らないといけないという危機感があり、第22回委員会までで煮詰まりつつあったが、完了せずきていた。
- ・補助金額が100万円以上以下で事業の雰囲気が違う。100万円以下の事業は市民文化の活動であり、広い公共性がある事業。100万円以上の事業は都市の経済活性化や文化の起爆力を期待した戦略的事业。この2つは別にしなればいけないということはこれまでの議論にでてきた。
- ・奈良の文化事業を推進していくなら、新規参入がある方がよい。
- ・補助金に対する予算獲得の感触はどのようなものか。
→基本的には、前年度予算ベースとなる。
- ・つまり、部門別総額で市民文化部門は300万、都市文化部門は1500万～1700万の予算枠での要求となる。
- ・市民文化活動への補助金は300万円の枠内で予算取りをして、枠内をどう分配するかは市民公募をして書面審査とすれば既得権益化を防げる。額の大きい事業は、事業毎に査定を受けるのが良いのではないか。
- ・公募の良いところは新しい団体に出会えることである。そして終わった後に報告会や交流会をして活動を透明化すれば、活動への理解も得られる。小さい所ではパネル展示でも良い。
- ・市民文化活動部門については、50万円が補助限度額。活動団体の増加を期待して、書面審査のみとする。参考として大阪アーツカウンシルでも50万円以下は書面審査のみである。
- ・50万円を超える額の事業からは都市文化活動部門とし、1000万円が補助限度額。ただし、審査会への事前プレゼンテーションと事後報告会を義務付ける。
- ・補助率について、他の自治体でも1/2か2/3が多いため、それでいくのが良いのではないか。予算制約の部分も大きいので、事務局に預ける。
- ・奈良市としてシティプロモーションでやりたい事業は、奈良市の都市格を上げることに繋がるものだから補助率を高めるのが道理である。

なら国際映画祭について

- ・なら国際映画祭は平成 28 年度は 0 になっていたが、その後財源はどうしたのか。
- 団体が、企業の助成制度の活用、企業スポンサー、個人会員などを増やす等の自主財源を見つけて実施した。今年度の映画祭は、さらに総事業費を拡大して実施したいそうだ。
- ・事業内容からして、民間主導の補助事業として扱うべき時期は過ぎて、行政における都市魅力としてのシティプロモーション事業として内部化すべきではないかの検討をするべき。その際は負担金もしくは委託事業に切り替える。5 月 14 日は、団体に対しても話を聞きたい。
- ・収支予算、経済波及効果、インバウンド、内部の入場者数、アンケート内容など、実績を団体自身に証明してもらわねばならない。
- ・次回開催に向けては、上限 1000 万で都市文化活動部門の枠内で執行してもらおう。そのために早急に委員会で審査をする。その際 28 年度に補助金がなくなっても運営できた理由の説明もしてもらおう。
- ・映画祭は行政の資産にできるかどうかの可能性のある事業であり、奈良の資産になるかもしれない。ただそのためには、もっとパブリックに中身をだして行かねばならない。

審査項目について

- ・資料 7 実現性の④の「市民」という文言について解釈が難しい部分があるため、事業募集で「ここでいう市民というのは必ずしも奈良市在住にこだわるものではありません」等明記する必要がある。「企画者」や「申請者」でも可か。
- ・公益性の項目の「市民」はできるだけ奈良市民であることが望ましい。

その他

- ・この補助金はどんな効果があるのかというツリー図みたいなものがあると、財政査定の時にもわかりやすい。事業に応募する側も事業をこういう目的に沿って組み立てていけばよいとわかる。
- ・体系化していく中で、既存のものを淡々として実施するだけでなくもう一度事業の意味を考え、市民参画してもらい、団体からも補助金のあり方の意見を聞いても良い。そうしてより良いものを作っていくことが奈良市にとって一番重要で、そういう局面に来ている。
- ・審査会をしていると、こんなに文化をしている市民がいるということや文化の大切さを再認識する。それを市民にも知ってもらうことは必要であり、公募の最終条件として、成果のプレゼンは入れてほしい。交流の場にもなるし、腕も磨かれていく。報告会時に助成金の説明会もすれば、もっと質のいいものがたくさんでてる。
- ・補助金はあくまでスタートラインであり、将来補助金を受けないで活動できる団体になるためにはどうしていくかが重要。金額の多寡ではなく、補助金があることを公開して皆さんに活用してもらう場が必要。
- ・補助金を出すということは奈良市の文化戦略を担っていくということである。奈良市の文化を発展していく団体を育てていくのは意義深い。
- ・人権としての文化政策は公平平等であるべきで、弱いところに目を向ける。それと似て非なるものが、都市文化政策。これは都市の文化発展戦略であり、個性選択であり、決断であり、集中的な投資が必要。それを混同してはいけない。
- ・都市文化政策としては、決めたことはとことんやる。その変わり、その街に経済的な利益や関係人口を増やすのだと野望を持ってほしい。

5 その他

(1) 平成 29 年度古都祝奈良事業報告

現代アート展としてチェ・ジョンファさんという韓国のアーティストの展示をした。今回は市民からのリサイクルペットボトルを使い、市役所にペットボトルシャンデリア、ならまちセンターに風船アートを作ったりなど、生活の中にこそアートがあるというテーマでいろんな展示をした。アンケート等はまた報告をさせていただく。この委員会で議論していただいたアンケートの項目も「他の人に薦めたいか」など工夫した。

(2) 奈良市美術館再オープン及び同記念展について

明日から、市役所隣の観光型複合商業施設「ミ・ナーラ」にて奈良市美術館が再オープンする。記念展も見に来ていただきたい。

■次回会議：5月7日（月）午後1時～、北棟5階20会議室